

---

◇熊谷良夫君

○議長（森元淑雄君） 次に、12番、熊谷良夫君の一般質問を許可いたします。熊谷良夫君、登壇願います。

（12番 熊谷良夫君 登壇）

○12番（熊谷良夫君） 通告に従いまして、一般質問を行います。

令和7年から一般作付が始まる「あきたこまちR」について、他に先駆けて販売を拡大していくためにも県民が一体となって押し進めていくべきだという考えで質問をいたします。

生産者にはもう既に周知されていると思いますが、秋田県内の消費者には何の情報も入ってきていないというのが現状ではないでしょうか。12月4日の秋田魁新報の記事を見て初めて知った方も多くいると思います。しかしこれにもアンケート調査の結果とその分析しか載っていませんでした。あきたこまちRが何なのかの解説がありませんでした。

10月に、秋田魁新報からアンケート調査票が議会に届きました。その直後、県から美郷町議会に送られてきた資料には、薄っぺらなA4の用紙1枚であり、それも消費者向けのものではなく生産者に配布されたものをコピーしたものでありました。

改めてネットで見ましたら、多くの情報が発信されていきました。しかし内容を整理し、理解することはなかなか容易ではありませんでした。これで情報発信は十分だとするならば、県のやり方には違和感を覚えます。秋田県民に正しい情報を分かりやすく行き渡らせるためには、いろいろな方法で発信すべきではないかと思いました。

さきの「サキホコレ」の周知方法は、首都圏での先行販売に併せ県外に大々的に宣伝されましたが、東京の友達においしいですかと聞かれても、見たことも食べたこともないと答えるしかできませんでした。

自分たちが試してみて、食べてみて、自分たちのよいと思うものを他人に勧める、これが商売、売り込みの基本ではないかと思っています。

一例を挙げますと、先月の14日に、社会民主党の党首が、参議院議員会館内で「放射線育苗種あきたこまちR、何が問題なのか」をテーマに討論会を開催しました。これに秋田県議会議員も出席して講演をしています。秋田県民が知らないままに事が進めば、偏った情報が先行し、拡散し、東日本大震災のときのような風評被害になってしまうおそれがあります。

あきたこまちRとは何か、あきたこまちRに切替える理由は何か、あきたこまちRの食味はどうなるのか、放射線育苗種による米ではなく、交配育種による米であるなど、具体的な説明

が必要と思います。

12月4日に、秋田魁新報の記事の秋田県立大学の長濱健一郎教授の話によれば「カドミウムの国際基準引下げの可能性やヒ素の問題を踏まえ、いち早く低吸収品種の研究・導入を進めた政策の狙いはよかった」と評価をしています。

町としても積極的に進めるべきと思います。何の手も打たず、このままでいけば、美郷ブランド米にも影響を与えかねないのではないかと思います。

以上のことについて町長の見解をお伺いします。

○議長（森元淑雄君） 答弁を求めます。町長、登壇願います。

（町長 松田知己君 登壇）

○町長（松田知己君） ただいまのご質問にお答えいたします。

あきたこまちRですが、既にご承知のように、カドミウム吸収性が極めて低い「コシヒカリ環1号」を「あきたこまち」に交配し、その後、選抜を繰り返しながら、あきたこまちを7回戻し交配してきた品種で、カドミウム低吸収性を持つ以外は、出穂期、成熟期、収量、品質、食味等の特性において、あきたこまちと同等となっており、また、カドミウムとヒ素の同時低減を可能とし、国際基準を見据えた米生産を目指すため、令和7年度に、あきたこまちからあきたこまちRに切替える旨で各般の作業が進められているところです。

県では、生産者や実需者、消費者の不安を払拭し、円滑な切替えを図るため、関係機関、農業団体による推進本部を設置し、科学的な知見に基づいた正しい情報や切替えの必要性等を周知しており、生産者に対しては、農業団体とともに導入の背景や、栽培特性に関するリーフレットを配布して説明するなど、理解を深めていただくよう努めているようです。

また消費者に対しては、ウェブサイト等で、安全で安心な米を生産していく強い思いや正しい情報を積極的に発信するとともに、相談にも応じるなど理解醸成に取り組んでいるようです。

町の対応についてですが、県等の取組を踏まえ、安全な米供給、輸出の拡大、農家の負担軽減の観点から、これまで町のホームページで県の情報掲載先を紹介したほか、美郷フェスタでのリーフレットによる情報発信、県農業共済組合を通じた町内米生産者へのリーフレット配布などを推進してきているところです。

また、圏域では、県仙北地域振興局やJ A秋田おぼこ、そして大仙市、仙北市、美郷町も参画したサポートチームが組織され、生産現場の不安や疑問の解消に努めるなど、円滑に進むよう取り組んでいるところですので、現在のこうした取組にもご認識をいただければと存じます。

町としては、議員ご質問のあきたこまちRへの切替え理由などを含む各般の情報発信について、

消費者を含む多くの方々に十二分に行うよう県等に対して要請していくとともに、引き続き県から配布されたリーフレット等を活用し、町民の理解促進に努めてまいりたいと存じます。

以上です。

○議長（森元淑雄君） 再質問ありますか。（「はい」の声あり）熊谷良夫君の再質問を許可いたします。

○12番（熊谷良夫君） 町長の答弁の中にもありましたけども、確認の意味で再質問をいたします。

一番大切なのは、放射線育種ではなく交配育種であるということだと思います。安全だけれども安心できないという感情論で反対する人もいますが、そこは分かりやすく説明して、納得のいただけるようにしていかなければ、このことは進んでいかないのではないかと思いますので、改めて町長の答弁をお願いします。

○議長（森元淑雄君） 答弁を求めます。町長、自席をお願いします。

○町長（松田知己君） ただいまの再質問にお答えいたします。

議員おっしゃいましたとおり、戻し交配をしていますので交配育種であることは変わりありません。ご認識の点について、私も同様と考えております。

以上です。

○議長（森元淑雄君） 再々質問ありますか。（「どうもありがとうございました」の声あり）

これで、12番、熊谷良夫君の一般質問を終わります。